

昔も今も！子供たちの好奇心と発想力は無限大！

令和2年度 緑の少年団交流集会『森からのおくりもの 木箱づくりと宝物さがし』活動レポート

コロナ禍の中、思うように外出がままならない日々に、私たち大人だけでなく子供たちも大きなストレスを感じています。そんな今、森の木や草花からの癒しの子カラに注目が集まり、自然に触れることの大切さが見直されてきています。

2月23日（祝火）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『新たな緑の少年団交流集会』がしずおか里山体験学習施設遊木の森原っぱ部にて開催されました。当日は2月とは思えぬ穏やかな日和の中、小学校1年生から6年生まで45名が参加し、木箱づくりと宝物さがしが行われました。

まずは木箱づくりからスタート

午前10時半、コロナ感染予防対策として、密を避けるために5チームに分かれ（黄色・赤・ピンク・緑・青のバンダナでチーム分け）作業がスタート。まずは、NPO法人しずおか環境教育研究会【エコエデュ】のスタッフから、木箱の組立方の説明を受け、事前に準備されていた木箱キットを2人1組で組立てていきます。

「コレをココに入れるんだよ。」「えーこっちだよ。」と子供たちなりに試行錯誤しながら作業は進みます。なかなか組立ができない小さい子を年上の子が手助けしている姿はとても微笑ましく、また思いやりの気持ちが見ているこちらにも伝わる光景でした。もともと木箱の完成形は決まっていたのですが、中には取り付け木の位置をわざとずらしている子もいたので理由を聞いてみると「だってここのが箱を持ちやすいでしょ。」という答えが返ってきました。子供なりに考えて大人の発想を超えてくるのはさすがと思いました。箱の形ができたらいよいよ釘打ち作業です。「釘が飛び出ちゃったー。」「腕が疲れたー。」など様々な声が上がっていました。上手に金槌を使い釘を打てる子もいれば、なかなか釘が入らず苦戦する子もいましたが、協力しながら自分だけの木箱が出来上がりました。

次は木箱にお化粧を

木箱が出来上がると、次は名前を書く作業です。当初は名前を書いてねーということでしたが、子供たちがペンを持ったら創作意欲が止まりません。名前に留まらず、それぞれ好きな絵や模様を木箱に描いていきます。「私お花が好きなの」と言ってお花の絵を描く子や「富士山と樹海を描く」といって木箱全面を使って豪快に描く子などそれぞれの個性が溢れた作品が出来上がっていきました。ペンは共有にして使うので、仲良く貸し借りをしていましたが、印象的だったのが緑色のペンを借りたい女の子が「葉っぱの色のペンを貸して」と頼んでいることでした。普通は「緑のペン貸して」って言うと思いますが、さすが普段から自然に親しんでいる緑の少年団の子供だからこその表現だなと感心させられました。他にも、釘が飛び出してしまったところに張った保護用のビニールテープを上手に絵に取り込んでいる子もいるなど、子供の自由な発想力に改めて驚かされました。約1時間程でオリジナリティが溢れた木箱が完成しました。



消毒をしてから作業スタート



まずはそれぞれ組立作業です



協力しながら釘で固定します



好きな色で木箱にお化粧



失敗して貼ったテープも絵の一部

お昼の後はいよいよ宝物さがし

昼食後いよいよ森に入っの宝物さがしです。まずはエコエデュのスタッフから「みんなが作った木箱の木が何の木でできているのかな？香りはどんな？」という問いかけがありました。子供たちは木箱の匂いを嗅いだり、色んな木の名前を出していましたが「この森の中に木箱の木があるから見つけて証拠を持って帰ってきてね！ヒントはこれだよ！」木の葉や木の皮を見せてもらい「それ以外にも、みんながいいと思った宝物を木箱に入れてきてね！」という話もあり、いよいよ宝探しがスタート。森の中の道をみんなで探索です。「あ！この葉っぱおもしろい！」「どんぐり見つけた！」「私どんぐり嫌い」「この実を割るといい匂いがするよ！」などなど中々前に進めないうらい子供たちの好奇心は止まりません。あっという間に木箱がいっぱいになってしまう子もいました。ミッションでもある木箱の木を探すことも忘れません。「これ葉っぱが似てるけど違うかな」「木の皮も同じだからこれだよ！」とみんなで検証しながら木箱の木と出会った子供たちはとても嬉しそうでした。

集めた宝物を発表！

無事にミッションをクリアし、広場に戻った子供たちは木箱に集めたそれぞれの宝物をチームごとに分かれて一番の宝物を発表します。「私はこの香りのする葉が一番の宝物です」クスノキの葉の香りを気に入った女の子は嬉しそうに発表していました。「私はこの木の皮」「僕はこの葉っぱ」などそれぞれが自分の目で見つけた宝物を見せ合います。チームの中で発表者を決め、最後に全体での発表会です。5チームから代表者が前にでて、それぞれの宝物を発表しました。中には難しい植物の名前を知っている子もいたり、木箱の中に神社の景色を作ってみたという子もいたり、始めて参加したけど、山にこんなに自然なものがあると思わなかったから楽しかったというように新しい発見をした子もいました。改めてこのような自然体験の大切さを感じました。

最後にエコエデュのスタッフから森の話がありました。身近な家や家具の話から木を使うということが森を守ることに繋がることやみんなが森を大切にすることで環境がよくなるというようにわかりやすく説明をされていました。話を聞いた子供たちにも森を大切にしたい気持ちが伝わっていると思いました。

指導者の想いも

子供たちを指導しているエコエデュのスタッフの方がこのような交流会を通して「見る・触る・味わう・聞く・香るの五感だけでなく、心を入れた六感を大切にしている。」というお話を伺いました。今こそこの心を豊かに育むということが大切だと思います。自然体験をすることで思いやりのある豊かな心が育つと思うので今後もこのような取り組みが増えていくことが優しい未来につながると思います。



最後に記念撮影



いよいよ宝物さがしスタート



木箱の木の前で証拠写真の撮影です



木箱から飛び出るくらいの宝物



代表者が発表です



休憩中に木登りする子供たち。最近の子供はゲームばかりしていると言いますが、遊ぶ環境がないだけで昔も今も本当は子供は変わっていないのかも知れません。